令和元年度　　第 3 回教育委員会定例会

議決事項

件　　名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第15号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について	垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）１年	特記事項なし	
報告第16号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について	垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）１年	特記事項なし	
報告第17号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について	垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 （任期）１年	特記事項なし	
議案第12号 令和元年度垂水市立学校評議員の委嘱について	令和元年度垂水市立学校評議員を委嘱しようとするものである。 （任期）１年	特記事項なし	承　　認
議案第 13 号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について	垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員を委嘱しようとするものである。 （任期）１年	特記事項なし	承　　認

令和元年度第 3 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
令和元年６月10日（月） 午後２時００分 ↓ 午後３時３５分 第２研修室	教　育　長　坂 元　裕 人 教育委員　野 村　繼 治 教育委員　田 原　正 人 教育委員　葛 迫　幸 平 教育委員　田之上 厚 美	教育総務課長　紺 屋 昭 男 学校教育課長　明 石 浩 久 社会教育課長　野 嶋 正 人 国体推進課長　米 田 昭 嗣

会　議　要　旨

１　開　会

定刻、定足数に達しており、令和元年度第３回教育委員会定例会を開会した。
議案第12号及び第13号の２件は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

２　令和元年度第２回教育委員会定例会会議録の承認

承認

３　議　事

報告第 15 号　垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について
報告第 16 号　垂水市教育支援委員会委員の委嘱について
報告第 17 号　垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について
議案第 12 号　令和元年度垂水市立学校評議員の委嘱について
議案第 13 号　垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について

４　その他

５　委員並びに教育長報告及び課長報告

６　閉　会

議事内容等

３　議　事	報告第 15 号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について
学校教育課長	垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	給食費の滞納は無いか。
学校教育課長	99%以上の収納率である。学校としては未納者に対しＰＴＡ会長と連携しながら督促を行っているところだ。
野村委員	わかった。
	報告第16号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について
学校教育課長	垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	この教育支援委員会委員の仕事や役割はどういうものか。
学校教育課長	秋の教育相談を受けた子どもたちについて、最終的に、例えば特別支援学校が望ましい、特別支援学級が望ましい、通常学級で支援が必要であるなどの答申を出していただくものである。入学する未就学児について、医師、養護学校の先生、スクールカウンセラーの方々に教育相談をお願いし、会において説明をいただいている。その他の委員の方々は、それぞれの立場で意見を出していただき、その子どもの望ましい就学先を検討し、教育委員会に答申していただくものだ。
田原委員	わかった。
	報告第17号
学校教育課長	令和元年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について 令和元年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
野村委員	この会の委員は教育支援委員会の委員と重なっているようだが、どのようなことを協議する会なのか。また、教育支援委員会とは別にしなければならないのか。
学校教育課長	委員の重なりはあるが、「一人一人の子どもたちに、どのような教育をしていくか」ということを話し合う場が教育支援委員会であり、特別支援連携協議会は、その子どもたちに市として、「どのような対応をしていったらよいか」などを話し合う場である。特別支援連携協議会は、大隅地区でも設置されており、地区としての連携、そのことを受けて、市としてどのように連携していくかを協議するものだ。

野村委員	わかった。 議案第12号 令和元年度垂水市立学校評議員の委嘱について （非公開） 議案第 13 号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について （非公開）
４　その他	なし
５　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	１．「瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールについて」 ６月１日（土）、瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールに出席した。今回で21 回目のコンクールであった。 全国的にも珍しい行進曲コンクールが今年も盛大に行われた。その物事について専門家でない私が、他に類を見ないコンクールであるということを知ったのは、前々回の大会で講評をされた、小澤先生の「自分も行進曲だけというのは初めての経験で、この垂水のコンクールは世界的にも珍しいものです。」という言葉であり、衝撃に似た強い印象を受けた。 今年度は出場団体が少し減ったということであったが、いつもどおり、それぞれの演奏は、大変迫力があり、心の底から湧き上がってくる感動を覚えた。日常忘れていた感性が呼び起こされ、いつの間にか別世界へタイムスリップしていた。そして、リフレッシュというか、気持ちが若返るような、脳細胞が活性化するような、新たなエネルギーをもらうことができた。 毎回思うことだが、改めて瀬戸口藤吉翁の存在と、その出生地である我が故郷垂水に感謝する次第であった。この素晴らしい音楽会が今後さらに充実・発展するように祈っている。
田原委員	１．「市町村教育委員連絡協議会定期総会について」 ５月 17 日（月）、市町村教育委員連絡協議会定期総会に出席した。総会終了後には、鹿児島こどもの虐待問題研究会副会長の髙田恵子氏より、「児

	童虐待の防止対策と支援について」という演題で講話があり、なかなか難しい内容で、すぐに理解できない部分もあった。 　講演後、改めて資料を読み直してみると、躾と虐待の違いは、何をしたら褒められ、何をしたら罰せられるかを子どもが理解し、予測できるのが躾で、親の気分や理解しがたい理由で罰せられるのが虐待だということであった。 　保護者の要因としては、経済的な問題など生活基盤の弱さや、育児以外の様々なストレス、望まない妊娠、親が子ども時代に親に可愛がられた思いがない、あるいは、親自身が虐待を受けたなど何か課題を抱えているというようなことであった。 　また、発達障害の子どもは、虐待を受けやすい要因を持っている。虐待が子どもに及ぼす影響はとても大きいため、重症化しないうちに、早期発見して支援したり、保護したりする必要があるとのことであった。 　虐待を防ぐためには、親の悩みや苦しみに寄り添う支援を継続的に行なう必要がある。親への支援こそが、虐待を減少させるためのカギを握っているとあった。親や家族を、社会から孤立させない取組が必要であろうと感じた。 ２．「肝属地区教育委員連絡協議会総会について」 　５月 28 日（火）、肝属地区教育委員連絡協議会総会に出席した。 　総会終了後の、鹿屋市と錦江町の指導主事の方々の発表があり、それぞれの市町で工夫した取組をされていることが分かった。 　その中で、大変印象に残ったのが鹿屋市の発表で、鹿屋小と鹿屋中が拠点校研究発表というのがあり、その学校の職員だけでなく、地域の研修熱心な先生方も集まって研究授業をし、拠点校の生徒に対して、当該校以外の先生方も研究授業をするという素晴らしい取組であった。まさに地域ぐるみの研究であり、効果や成果が地域全体にすぐに拡散していくよい取組だと思った。 ３．「瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールについて」 　６月１日（土）、瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールに出席した。県の大会等との日程の都合があるのか、参加団体が少なかったようだった。 　しかし、参加していただいた学校は、小・中ごとにレベルの差はなく、どこも素晴らしい演奏を披露してくれたように思う。 　体を揺らしながら楽しそうに演奏する学校や、行進曲の中で、強弱をしっかりつけて演奏する学校など、指揮者の思いを子どもたちがうまく表現していて、よい演奏だったと思った。
葛迫委員	１．「生涯学習オープニングフェアについて」 　５月 19 日(月)、垂水市生涯学習オープニングフェアに出席した。冒頭、国体関連のＰＲを兼ねたフェンシング競技の紹介から始まった。また、昨年の生涯学習の講座生による発表会では、スポーツチャンバラの演技があり、小学生から成人までの試合が紹介された。 　よく目を凝らして見ていたが、どの競技についてもどっちが勝ったのか、

	負けたのか理解できないことが残念であった。フェンシングやスポーツチャンバラのルールや、道具についてもう少し知る必要があると痛感した。 　垂水地区公民館合唱クラブは、開講して29年目ということもあって、60代から80代までの80名が在籍し、多くの皆さんが受講しているということであった。 　西川先生のピアノ伴奏により、みんなが知っている懐かしい歌や童謡を楽しく合唱していた。高齢者の生きがいということだが、大きな声で歌うことが生きがいや健康にもつながっていることに気付かされた。 　生涯学習で作成した作品は、市民館ロビーに展示してあり、カラーセラピー、色鉛筆画、写真、俳句の４クラスの作品には、受講生の一生懸命さが見て取れた。 　生涯を通して、一つのことをやり遂げて作品を作っていくことの素晴らしさ、そして、そこに感動が生まれ、また新しい作品に挑戦していく。この繰返しによって、味のある奥深い作品が生まれ、観覧者に感動を与える生涯学習を続けることの意義を改めて感じることであった。 ２．「垂水街角美術館ついて」 　６月２日(日)から始まった、垂水街角美術館の垂水市文化協会展が９月８日（日）まで開催されることとなった。 　今回は垂水市文化協会の絵画（垂水美術倶楽部)、写真（フォトフレンズたるみず）の会員による展覧会である。 　絵画では、各展覧会で受賞した作品や、入選した作品を展示し、写真では鹿児島市立美術館で発表した作品など、垂水市の文化に携わる方たちの真摯に向き合って制作された作品55点が各ギャラリーに展示してある。 　皆さんも時間に余裕ができたら、是非この素晴らしい作品たちをご堪能していただけたらと思っている。 　また、店舗ギャラリーも２件増え、森の駅近くの「財宝猿ヶ城ラドン療養泉」、道の駅垂水はまびらに隣接する、「ファミリーマート北方」に今年度から参加していただいている。
田之上委員	１．「瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールについて」 　６月１日(土)、瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールが、垂水市文化会館で開催され出席した。 　本年は、例年に比べて少ないようだったが、どの団体も日頃の練習の成果を存分に発揮され、素晴らしい演奏をしていた。 　また、演奏者の方々の舞台への出入りの様子、あるいは会場の外での態度やあいさつなどを目の当たりにし、清々しく思った。さらに、当日の運営に携わっていた職員の方々、児童・生徒の皆さんの、気持ちの良い対応は、大変ありがたかった。 　このような取組が、郷土の偉人を顕彰して始まった、他に類を見ないこのコンクールが長く続いている一つの理由ではないかと改めて思うことだった。 　併せて、コンクールの結果については、興味をもたれている方もいらっしゃるので、早めにホームページ等へ掲載いただければと思っている。

	２．「スクールバス添乗について」 　学校応援団活動で、垂水中央中学校のスクールバスに添乗した。 　生徒の皆さんは、バスの運転手さんに、しっかりとあいさつをして乗車する姿に、朝から爽やかな気持ちになった。当たり前のことを、当たり前にできることは素晴らしいことだと思った。 　バスが学校に着くと先生方が出迎えて、安全にも目を配っていらしたことが印象的で、とてもよいことだと思った。
教育長	１．「最近の事件・事故について」 　令和元年になって、事件事故が多いように思う。なぜこんなに人の命を軽んじる事件が多いのか。また一方では、高齢者ドライバーの方々の事故が多いことなど、負の連鎖というか、事件事故が報道される日がないくらい、交通事故を含めて、人の命、子どもの命が脅かされることが発生している。 　このようなことから、改めて交通安全、不審者、自然災害などからどうやって身を守るかということを学校は繰返し指導を行い、子ども自身もしっかりと、そのような能力を身につけていかなくてはならないのではないかと思うことだった。 ２．「校長会での学力向上について」 　先般の校長会で、学力向上ということをテーマで話をしていただいた。 　それぞれの学校の取組があり、前向きなよい取組をされていると思う中で、校長先生方それぞれが学力に対する危機感を持っている。 　ある試験の結果を受けて、「非常にショックを受けた。」と言われ、「今後は学力向上をこのように進めていきたい」と校長先生方からあった。 　私が思う大事だと思うことは、「職員までその気持ちが届いているのかどうかだ」ということで、「同じように職員もショックを受けているのか」ということである。校長先生方と同じ思いを持たないことには、「先ずは授業を変えよう」という気持ちにはならないと思う。 　一方で、子どもたちがテストの受け方を含めて、「最後までやりきるという『学びの姿』をきちんと児童生徒に身につけてほしいと思う。」と話をした。 　学力向上については、なかなか県全体がよくない状況で、先般の学校訪問においても、先生方や児童も一生懸命頑張っているが、「何かもう一つ学力向上の波に乗れない」というもどかしさを私自身も感じている。今後どうやってよい循環を作っていくのかということを今考えているところである。 ３．「瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールについて」 　瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールについて、審査も厳しくなってきていることを感じた。また、トップバッターの学校の演奏が基準となるのかなとも思った。 　そのような中で、県立松陽高校が２連覇を果たした。今まで「連覇は作

	らない」というようなことがあったように思っていたが、それを打ち破ってグランプリを獲得したことは画期的なことであったと思う。 ４．「学校訪問について」 　学校訪問で、極小規模校の「松ケ崎小」、ある程度の規模を持った集団活動の出来る「協和小」の複式授業を、教育委員の皆様にも見ていただいたが、どちらの学校もよい指導を行っていると思った。 　極端な学力差のない、指導力の大きな差もない学校の組織ではなかったかと思う。そして一方、子どもたちの学ぶ姿勢、あるいは、テストの結果まで結びつくという、その部分が非常に大事なのではないかと私自身思った。子どもたちも学習に前向きで、もっともっと頑張れると考える。 　特色ある教育活動においても、両校とも地域を巻き込んで、地域のよさを生かしながらよい活動をやっているなあと思った。 　やはり教育というのは、「子どもたちや教師それぞれの表情に出るなあ。」と感じた。子どもや教師のよい表情を見て、非常にさわやかなすがすがしい気持ちの学校訪問であった。今月末も学校訪問が予定されているが、きっと子どもたちが輝いているのではないかと期待している。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長	５月 10 日から６月 10 日までの主な行事等について報告。 併せて、７月９日までの予定についてお知らせした。
６　閉　会	